



2月の青空の下、庭に

梅の花が咲いています



愛知県豊川市パート9

子供が出来病弱とはいえ比較的元気な走り回っています。子供は私に取って二人目で、初めての子は10日ほどで死んでしまいましたので、初めての子と同じですね。振り返ってみると私の人生は波瀾万丈の人生ですね。その時その時はそう思わなくて過ぎて来ましたが、今振り返るとなんで?と思える行動をとっていましたね。

影響を受けました。

法然聖人の教えの「念仏を唱えれば誰でも救われる」、と言う事を実践してその会は念仏修行を皆さんがしている会なのです。私は同じ若者が熱心に念仏(南無阿弥陀仏)を何時間も唱えている姿に触発され自分もしてみようと始めたのが、私の人生で後々大きな影響を与えて行くことになりました。ただ座って南無阿弥陀仏と、木魚を叩きながら何時間も唱えるのですが、初めは足が痛くて座っているだけで苦痛でしたが、慣れてくるとみんなと一緒に唱えるのって歌を合唱するが如くに楽しくなるものです。

は京都の北の方に古知谷と言うところがあるので、そのお寺で新年の別事(12月30日から1月5日まで)に初めて泊まりがけで参加しました。寒いところで当時は暖房も火鉢が主で他にはありません。50人ほどの参加者で若者ばかりです。朝4時起き4時30分から6時30分まで念仏、7時に朝食、8時から9時まで導師のお話し、9時から12時まで3時間念仏、12時昼食、1時から2時まで導師のお話し、2時から4時30分まで念仏、5時夕食その後お風呂に入り午後7時から9時まで念仏、10時就寝という1日です。最後の日は徹夜念仏です。きつい修行でした。それで悟れたのかと言うとそう簡単なものではないようです。すこし徹夜の時に涙が自然に出て来て泣けて泣けてしようがないと言う経験だけでしたが、この古知

谷の別事が私の人生の考え方を変えた事は確かです。其の時私は一生をかけて「悟り」と言うものに向き合って生きていく覚悟をしました。私の人生はこの世での出世や、お金持ちになることではなく、如何に悟りを開くか、そのために厳しい念仏修行をして行こうと心に誓いました。もう私にとってお金や、学歴、出世などは興味のないものになっていました。のちに大学に行っても大学の勉強は適当にしてお寺めぐりをして念仏をさせてもらっていました。

私の人生の全ての礎を作ったのが高校時代でした。そこから私の人生は出発し、いまだにそこから逃れられません。皆さんの人生の分枝点はいつでしょうか? 大学は九州博多に行きました。博多で大学の入学金、授業料を出してください。授業料を出してください。私の方で、私の生活は日々食べていくだけの生活費しかありませんでしたので、大学など無理と考えていましたが、お金を出してくださるとのこと、それも仏教青年会とご縁で出させていただきました。私一人が九州に渡りました。大学生生活は念仏で各地のお寺参りをするのは楽しいのですが、それ以外は学校も楽しくなくいつしか私は社会に出てこの悟りを開く修行ができるものかどうか、疑問でした。 そんな思いを持って2年が過ぎた頃、社会に出て試したいと言う欲求が抑えられなくて、大学を休学して、東京に出ました。 京都の仏教青年会の人で私と同じ歳の人が飯田橋の喫茶店に勤めていましたのでそこを訪ねて彼の意見を聞きながら、私は新聞広告に出ている錦糸町のキャバレーのボーイに応募しました。学生服しかなく住むところもない

